

## 審 議 事 項

件名・議案	提案者	資料 (頁)	提案理由等 (※シンポジウム等、後援関係については概要を記載)	説明者	根拠規定 等
<b>I 審議事項</b>					
<b>1. 委員会関係</b>					
提案1	(幹事会附置委員会) 地方学術会議委員会 (1)運営要綱の一部改正(委員構成の変更1件) (2)委員会委員の決定(追加1件)	地方学術 会議委員 会委員長	B(5-6) 地方学術会議委員会運営要綱の一部を改正することにより、各地区会議との連携及び若手科学者の視点の反映を図るため、委員会の構成員に各地区会議構成員及び若手アカデミー会員を追加する必要があるため。 また同委員会委員の追加を決定する必要があるため。	渡辺副会 長	内規12条 2項
提案2	(分野別委員会) (1)委員会委員の決定(追加1件)	第二部部 長	B(7) 分野別委員会における委員の追加を決定する必要があるため。	第二部部 長	内規18条
<b>2. 地区会議関係</b>					
提案3	令和2年度各地区会議 事業計画を決定すること	科学者委 員会委員 長	B(9-20) 日本学術会議地区会議運営要綱第7第2項の規定に基づき、各地区会議の事業計画を決定する必要があるため。	三成副会 長	地区会議 運営要綱 第7第2 項
<b>3. 提言等関係</b>					
提案4	提言「外国人の子どもの教育を受ける権利と修学の保障——公立高校の「入口」から「出口」まで」について日本学術会議会則第2条第3号の「提言」として取り扱うこと	地域研究 委員会委 員長	C(1-37) 地域研究委員会多文化共生分科会において、提言を取りまとめたので、関係機関等に対する提言として、これを外部に公表したいため。 <b>※第一部査読</b>	地域研究 委員会多 文化共生 分科会竹 沢泰子委 員長、志 水宏吉委 員	内規3条1 項
提案5	提言「地球温暖化対策としての建築分野での木材利用の促進」について日本学術会議会則第2条第3号の「提言」として取り扱うこと	農学委員 会委員長	C(39-70) 農学委員会林学分科会において、提言をとりまとめたので、関係機関等に対する提言として、これを外部に公表したいため。 <b>※第二部査読</b>	農学委員 会林学分 科会丹下 健委員長 、五十田 博委員	内規3条1 項

提案6	提言「地域包括ケアシステム構築のために求められる歯科保健医療体制」について日本学術会議会則第2条第3号の「提言」として取り扱うこと	歯学委員会委員長	C(71-94)	歯学委員会、同病態系歯学分科会及び臨床系歯学分科会において、提言をとりまとめたので、関係機関等に対する提言として、これを外部に公表したいため。 ※第二部査読	歯学委員会丹沢秀樹委員長	内規3条1項
提案7	提言「災害が激化する時代に地域社会の脆弱化をどう防ぐか」について日本学術会議会則第2条第3号の「提言」として取り扱うこと	地球惑星科学委員会委員長、土木・建築学委員会委員長	C(95-122)	地球惑星科学委員会地球・人間圏分科会および土木・建築学委員会IRDR分科会において、提言を取りまとめたので、関係機関等に対する提言として、これを外部に公表したいため。 ※第三部査読	地球惑星科学委員会地球・人間圏分科会春山成子委員長、鈴木康弘委員	内規3条1項
提案8	提言「長期の温室効果ガス大幅排出削減に向けたイノベーションの加速」について日本学術会議会則第2条第3号の「提言」として取り扱うこと	総合工学委員会委員長	C(123-177)	総合工学委員会エネルギーと科学技術に関する分科会において、提言を取りまとめたので、関係機関等に対する提言として、これを外部に公表したいため。 ※第三部査読	総合工学委員会エネルギーと科学技術に関する分科会委員長鈴木置保雄、地球温暖化対応の視点からのエネルギー対策・政策検討小委員会委員長秋元圭吾	内規3条1項
提案9	報告「地球惑星科学分野における科学・夢ロードマップ(改訂)2020」について日本学術会議会則第2条第4号の「報告」として取り扱うこと	地球惑星科学委員会委員長	C(179-213)	地球惑星科学委員会、地球惑星科学委員会地球惑星科学企画分科会及び地球惑星科学委員会地球・惑星圏分科会において、報告を取りまとめたので、関係機関等に対する報告として、これを外部に公表したいため。 ※第三部査読	地球惑星科学委員会藤井良一委員長、地球惑星科学委員会地球・惑星圏分科会田近英一委員長	内規3条1項

(報告等)	提言「免震・制振のデータ改ざん問題と信頼回復への対策」インパクトレポート	土木工学・建築学委員会委員長	C(215-217)	日本学術会議第18回幹事会決定「日本学術会議の意思の表出における取扱要領」に基づき、提言「免震・制振のデータ改ざん問題と信頼回復への対策」に係るインパクトレポートの報告を行う必要があるため。	会長	意思の表出における取扱要領3
-------	--------------------------------------	----------------	------------	---	----	----------------

#### 4. 協力学術研究団体関係

提案10	日本学術会議協力学術研究団体を指定すること	科学者委員会委員長	B(21)	日本学術会議協力学術研究団体への新規申込のあった下記団体について、科学者委員会の意見に基づき、指定することとしたい。 ①日本子育て学会 ※令和2年4月30日現在2,065団体（上記申請団体を含む）	三成副会長	会則36条
------	-----------------------	-----------	-------	--	-------	-------

#### 5. その他のシンポジウム等

提案11	公開WEBシンポジウム「分子科学研究所所長招聘会議「光り輝く博士課程卒業生（仮題）」	化学委員会	B(23-24)	主催：日本学術会議化学委員会 日時：令和2年6月3日(水)13:00～17:00 場所：岡崎コンファレンスセンター ※第三部承認	-	内規別表第1
提案12	日本学術会議九州・沖縄地区会議主催学術講演会「地域防災とリスクコミュニケーション」	科学者委員会委員長	B(25)	主催：日本学術会議九州・沖縄地区会議 日時：令和2年9月28日(月)14:00～16:30 場所：大分全日空ホテルオアシスタワー(大分市) ※開催主体が地区会議のため、承認は幹事会のみ	-	内規別表第1

6. 後援

<p>提案13</p>	<p>国内会議の後援をすること</p>	<p>会長</p>	<p>—</p>	<p>以下の会議について、後援の申請があり、関係する部に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。</p> <p>①第63回自動制御連合講演会          主催：公益社団法人計測自動制御学会(幹事学会)、システム制御情報学会、日本機械学会、化学工学会、精密工学会、電気学会、日本航空宇宙学会          期間：令和2年11月18日(水)～20日(金)          場所：黒部・宇奈月温泉やまのは、黒部市宇奈月国際会館セレネ(富山県黒部市)          参加予定者数：約400名          申請者：公益社団法人計測自動制御学会 榎木 哲夫  <b>※第三部承認</b></p> <p>②第46回全国語学教育学会年次国際大会          主催：特定非営利活動法人全国語学教育学会          期間：令和2年11月20日(金)～23日(月)          場所：つくば国際会議場(茨城県つくば市)          参加予定者数：約1600名          申請者：特定非営利活動法人全国語学教育学会代表 リッチモンド・ストゥループ  <b>※第一部承認</b></p>	<p>会長</p>	<p>後援名義使用承認基準3(2)ウ</p>
-------------	---------------------	-----------	----------	--	-----------	------------------------

II その他

	<p>件名</p>	<p>資料(頁)</p>
<p>1.</p>	<p>今後の総会及び幹事会開催予定              次回幹事会は5月14日(木)13時30分開催予定</p>	<p>D(1)</p>

○地方学術会議委員会運営要綱（平成30年5月31日日本学術会議第264回幹事会決定）の一部を次のように改正する。（委員構成の変更）

改正後	改正前
<p>第1、第2（略）</p> <p>（組織）</p> <p>第3 委員会は、会長、副会長、<u>各地区会議につきそれぞれ構成員1名及び若手アカデミー会員1名</u>をもって組織する。</p> <p>第4～第6（略）</p>	<p>第1、第2（略）</p> <p>（組織）</p> <p>第3 委員会は、会長、副会長及び<u>会員若干名</u>をもって組織する。</p> <p>第4～第6（略）</p>

附則（令和2年 月 日日本学術会議第 回幹事会決定）  
この決定は、決定の日から施行する。

【幹事会附置委員会】

○委員の決定（追加1件）

（地方学術会議委員会）

氏名	所属・職名	備考
佐藤 嘉倫	東北大学大学院文学研究科副研究科長・教授	第一部会員 地区会議構成員
戸田山 和久	名古屋大学大学院情報科学研究科教授	第一部会員 地区会議構成員
相田 美砂子	広島大学理事・副学長	第三部会員 地区会議構成員
岸村 顕広	九州大学大学院工学研究院応用化学部門・九州大学分子システム科学センター准教授	連携会員 若手アカデミー 会員

【分野別委員会】

○委員の決定（追加 3 件）

（第二部大規模感染症予防・制圧体制検討分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
糠塚 康江	東北大学大学院法学研究科名誉教授	第一部会員
平井 みどり	兵庫県赤十字血液センター所長	第二部会員、副部長
徳田 英幸	国立研究開発法人 情報通信研究機構 理事長	第三部会員、副部長

構成：15名以内の会員又は連携会員





## 令和2年度各地区会議事業計画（案）

地区会議名	事業名	開催時期・場所	地区会議事務局
北海道	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1回地区会議運営協議会</li> <li>第2回地区会議運営協議会</li> <li>第3回地区会議運営協議会</li> <li>学術講演会及び科学者との懇談会</li> <li>サイエンスカフェ</li> <li>地区会議ニュースの発行（No. 51）</li> </ul>	4～5月（北海道大学） 開催月未定（同上） 開催月未定（同上） 開催月未定（同上） 開催月未定（三省堂書店札幌店等） 3月	北海道大学 （研究推進部研究振興企画課）
東北	<ul style="list-style-type: none"> <li>学術講演会及び科学者との懇談会</li> <li>第1回地区会議運営協議会</li> <li>第2回地区会議運営協議会</li> <li>地区会議ニュースの発行（No. 35）</li> </ul>	9月～11月（東北大学(予定)） 10月～11月 2月～3月 3月	東北大学 （研究推進部研究推進課）
中部	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1回地区会議運営協議会及び学術講演会</li> <li>地区会議ニュースの発行（No. 149）</li> <li>第2回地区会議運営協議会及び学術講演会</li> <li>地区会議ニュースの発行（No. 150）</li> </ul>	6月9日（金沢大学） 10月 11～12月（岐阜県（予定）） 3月	名古屋大学 （研究協力部研究支援課）
近畿	<ul style="list-style-type: none"> <li>学術講演会（1回）</li> <li>地区会議運営協議会及び学術文化懇談会</li> <li>地区会議ニュースの発行（No. 30）</li> </ul>	開催月・開催地未定 2～3月（未定） 3月	京都産業大学 （学長室）
中国・四国	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1回地区会議運営協議会及び学術講演会</li> <li>第2回地区会議運営協議会</li> <li>地区会議ニュースの発行（No. 52）</li> <li>学術の動向への投稿（年1回）</li> </ul>	11月（松山市） 12月以降（広島大学） 1月 （未定）	広島大学 （学術・社会連携室）
九州・沖縄	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1回地区会議運営協議会</li> <li>第三部共催の公開シンポジウム</li> <li>第1回科学者との懇談会及び学術講演会</li> <li>第2回科学者との懇談会及び学術講演会</li> <li>※地方学術会議との共催予定</li> <li>第2回地区会議運営協議会</li> <li>地区会議ニュースの発行（No. 119）</li> </ul>	8月（書面回議） 8月6日（九州大学） 9月（大分市） 下半期（福岡市（予定）） 3月（書面回議） 3月	九州大学 （企画部研究推進課）

# 令和元年度 日本学術会議 北海道地区会議 事業実施報告

## 【運営協議会】

### 第1回地区会議運営協議会

令和元年6月27日(木) 北海道大学(札幌市)

- ・令和元年度日本学術会議北海道地区会議学術講演会について
- ・日本学術会議サイエンスカフェの実施報告

### 第2回地区会議運営協議会(持ち回り)

令和元年8月20日(火) 北海道大学(札幌市)

- ・令和元年11月開催予定の日本学術会議北海道地区会議学術講演会「スポーツと学術(仮題)」の開催について

### 第3回地区会議運営協議会(持ち回り)

令和2年3月2日(月) 北海道大学(札幌市)

- ・令和2年度日本学術会議北海道地区会議事業計画について
- ・令和元年度日本学術会議北海道地区会議事業実施報告について

## 【日本学術会議北海道地区会議学術講演会】

令和元年11月9日(土)13:30~17:00 北海道大学学術交流会館(札幌市)

主催:日本学術会議、北海道大学

テーマ:スポーツ・科学・社会

参加者:69名

(プログラム):

学術講演会

司会 寶金 清博(日本学術会議第二部会員・北海道地区会議代表幹事・北海道大学特任教授)

挨拶 渡辺 美代子(日本学術会議副会長・国立研究開発法人科学技術振興機構副理事)

イントロダクション

寶金 清博(日本学術会議第二部会員・北海道地区会議代表幹事・北海道大学特任教授)

講演「スポーツ障害を科学する ―野球肘の科学―」

岩崎 倫政(北海道大学大学院医学研究院整形外科学教室教授)

講演「スポーツの経済学」

大野 由夏(日本学術会議第一部会員・北海道大学大学院経済学研究院教授)

講演「プロ野球における人材育成」

白井 一幸(元日本ハムファイターズ1軍内野守備走塁コーチ兼作戦担当)

講演「変革期を迎えた大学スポーツ」

池田 敦司(仙台大学教授、一般社団法人大学スポーツ協会(UNIVAS)専務理事)

挨拶 加藤 昌子(日本学術会議第三部会員、北海道大学大学院理学研究院教授)

**【サイエンスカフェ】**

令和2年2月21日(金) 三省堂書店札幌店(札幌市)

**【科学者との懇談会】**

令和元年11月9日(土) 北海道大学学術交流会館(札幌市) 渡辺副会長を囲んで

## 令和元年度 東北地区会議事業報告

事業名	時期	場所	事業内容
○科学者との懇談会 及び公開学術講演会	令和元年 9月15日(日) ①科学者との懇 談会:11:30～ 13:00  ②公開学術講 演会:13:30～ 16:45	①科学者との 懇談会コラッセ ふくしま 4階小会議室 403  ②公開学術講 演会:コラッセ ふくしま 4階多目的ホ ール	①科学者との懇談会 福島県立医科大学若手研究者との懇 談 【テーマ】 (女性)若手研究者の研究支援につい て  ②公開学術講演会 【テーマ】 超高齢社会における看取りを考える 【講演者】 1. 鈴木 雅夫 (ふくしま在宅緩和ケアクリニック院長、 特定非営利活動法人福島県緩和ケア 支援ネットワーク理事長) 2. 高橋 悦堂 (北海道東北臨床宗教師会事務局長、 日本臨床宗教師会認定臨床宗教師) 3. 玉井 照枝 (暮らしの保健室・ケアカフェ アンダン チ) 4. 吉澤 誠 (東北大学 総長特別補佐(社会連携担 当)、サイバーサイエンスセンター教授) ◇参加者 約130名
○東北地区会議 運営協議会	令和2年 2月19日(水)	東北大学 片平北門会館 セリシール	令和元年度事業報告及び 令和2年度事業計画の審議
○地区会議ニュース の発行(No. 34)	令和2年3月 (予定)		掲載内容(予定) 公開シンポジウム開催報告他

令和元年度 事業実施報告書

(中部地区会議)

事業名	期日・場所	内 容	出席者数
中部地区会議	令和元年 6月28日(金) 富山市  (富山大学 5階大会議室)	1 中部地区会議運営協議会について 2 地区会議代表幹事の報告 3 学術講演会について 4 地区会議ニュースについて 5 平成30年度中部地区会議事業実施報告について 6 次回地区会議の開催について	43名
(科学者懇談会 各県幹事との 打合せ会)		1 科学者懇談会について 2 科学者懇談会新会員の加入及び幹事の交替について 3 平成30年度科学者懇談会収支について 4 日本学術会議第178回総会の傍聴について 5 学術講演会の進め方について	43名
学術講演会	(信州大学 黒田講堂会議室)	1 開会挨拶 2 科学者との懇談会活動報告 3 講演 『から発信する学術研究とSDGs対応』 ○記憶の神経科学的実体 井ノ口 馨(富山大学大学院医学薬学研究部 教授) ○和漢薬を基盤とした神経疾患治療薬開発 東田 千尋(富山大学和漢医薬学総合研究所教授) ○気候変動と富山の水循環 張 勁(富山大学大学院理工学研究部教授) ○クリーンエネルギー開発 椿 範立(富山大学大学院理工学研究部教授) ○富山市の取り組み 本田 信次(富山市政策監)	345名
中部地区会議	令和元年 11月29日(金) 静岡市  (静岡大学 大学会館セミ ナールーム)	1 中部地区会議運営協議会について 2 地区会議代表幹事の報告 3 学術講演会について 4 地区会議ニュースについて 5 令和2年度中部地区会議事業実施計画について 6 次回地区会議の開催について	32名
(科学者懇談会 各県幹事との 打合せ会)		1 科学者懇談会について 2 科学者懇談会新会員の加入について 3 日本学術会議第179回総会の報告について 4 学術講演会の進め方について	32名
学術講演会	(静岡大学 大学会館ホー ル)	1 開会挨拶 2 科学者との懇談会活動報告 3 講演 『地域に根差した学術研究と地域貢献への展望』 ○地域を活かす学術研究 - ジェンダー視点で問う持続可能 社会 三成 美保(日本学術会議副会長) ○近代における茶業を通じた日中交流と英米系商社 戸部 健(静岡大学大学院人文社会科学領域・教授) ○世界遺産・富士山の噴火史と防災 小山 真人(静岡大学大学院教育学領域・教授) ○地域知から生まれた温暖化対応型農業資材「植物熱耐性 向上剤」の開発研究 原 正和(静岡大学大学院農学領域・教授)	66名
地区会議ニュ ースの発行 (No. 147) (No. 148)	令和元年 10月 令和2年 3月	発行部数 530部 発行部数 535部	

## 令和元年度 近畿地区会議事業報告

日 時	場 所	実 施 事 業	講 演 者	備 考
<p>※学術講演会について、当初10月12日（土）開催の予定であったが、台風11号の影響による交通機関の乱れや、参加者の安全面を考慮し、3月8日（日）に延期することとした。</p> <p>しかし、3月8日（日）についても、新型コロナウイルス感染の状況を考慮した結果、やむなく中止とした。</p>				
<p>令和2年 3月8日（日） 13:00～17:00 <b>【中止】</b></p>	<p>むすびわざ館 2階ホール</p>	<p>令和2年度日本学術会議近畿地区会議 学術講演会「未来の語り口：学術からの貢献」</p> <p>開会の挨拶</p> <p>趣旨説明</p> <p>講演1 「フューチャー・デザイン：持続可能な社会を引き継ぐために」</p> <p>講演2 「AIを活用した社会構想と政策提言」</p>	<p>伊藤 公雄 日本学術会議第一部会員 日本学術会議近畿地区会議代表幹事 京都産業大学現代社会学部教授</p> <p>山極 壽一 日本学術会議会長 日本学術会議第二部会員 京都大学総長</p> <p>小林 傳司 日本学術会議第一部会員 大阪大学C0デザインセンター教授</p> <p>原 圭史郎 日本学術会議特任連携会員 大阪大学大学院工学研究科附属オープンイノベーション教育研究センター教授</p> <p>広井 良典 京都大学こころの未来研究センター教授</p>	<p>主催： 日本学術会議近畿地区会議 京都産業大学</p> <p>後援： 公益財団法人日本学術協力財団</p>

		<p>講演3 「食とリスクの視点からみた未来」</p> <p>講演4 「Society 5.0 が描く未来」</p> <p>講演5 「変容する情報社会と未来の構想：ポスト・ヒューマンの時代とは」</p> <p>全体討論</p> <p>閉会の挨拶</p> <p>総合司会</p>	<p>新山 陽子 日本学術会議連携会員 立命館大学食マネジメント学部教授</p> <p>東野 輝夫 日本学術会議第三部会員 大阪大学大学院情報科学研究科教授</p> <p>遠藤 薫 日本学術会議第一部会員 学習院大学法学部教授</p> <p>コーディネータ 小林 傳司</p> <p>小山田 耕二 日本学術会議第三部会員 京都大学学術情報メディアセンター教授</p> <p>高山 佳奈子 日本学術会議第一部会員 京都大学大学院法学研究科教授</p>	
<p>令和2年 2月14日(金) 10:00~12:00</p>	<p>京都産業大学 むすびわざ館 3階301教室</p>	<p>日本学術会議近畿地区会議運営協議会・ 学術文化懇談会(同時開催)</p>	<p>議題 1. 令和2年度事業計画について 2. 令和2年度近畿地区会議学術講演会について 3. その他</p>	
<p>令和2年3月</p>		<p>日本学術会議近畿地区会議ニュースの 発行 —掲載概要— (令和元年度日本学術会議近畿地区 会議の活動報告(中止))</p>		<p>発行部数は1,000部</p>

# 近畿地区会議学術講演会

## — 未来の語り口：学術からの貢献 —

人口ボーナスを享受した右肩上がりの時代が終わり、日本社会は、人口減少と高齢化の進行の先頭に立とうとしていると言われています。海外の「先進」国のモデルを模倣する時代は終わり、自ら考え、試行錯誤を通じて未来を切り開く覚悟が、私たちには求められています。

今回の学術講演会では、さまざまな立場から「未来の語り口」を提示し、今後の日本社会の方向性をめぐって、討議のための素材を提供したいと思います。今回の講演会開催にあたっては、特に、未来の主人公たる高校生や大学生にも広く参加を呼び掛けたいと考えています。世代を超えた多くの方の参加を心より期待しています。

どなたでも  
参加いただけます。

**参加費  
無料**

**参加申込  
不要**

開催日時

令和2年 **3月8日(日)** **13:00 - 17:00**  
(開場 12:30)

会場

**むすびわざ館2階 ホール** (京都産業大学壬生校地:京都市下京区)

※京都市北区上賀茂の京都産業大学のキャンパスではありませんのでご注意ください。

※台風19号の影響により令和元年10月12日の開催を延期したプログラムとなります。

### 開会の挨拶

日本学術会議近畿地区会議代表幹事・日本学術会議第一部会員・京都産業大学現代社会学部教授  
日本学術会議会長・日本学術会議第二部会員・京都大学総長

伊藤 公雄  
山極 壽一

### 趣旨説明

日本学術会議第一部会員・大阪大学COデザインセンター教授

小林 傳司

講演1「フューチャー・デザイン:持続可能な社会を引き継ぐために」

日本学術会議特任連携会員・大阪大学大学院工学研究科附属オープンイノベーション教育研究センター教授

原 圭史郎

講演2「AIを活用した社会構想と政策提言」 京都大学こころの未来研究センター教授

広井 良典

講演3「食とリスクの視点からみた未来」 日本学術会議連携会員・立命館大学食マネジメント学部教授

新山 陽子

講演4「Society 5.0 が描く未来」 日本学術会議第三部会員・大阪大学大学院情報科学研究科教授

東野 輝夫

講演5「変容する情報社会と未来の構想:ポスト・ヒューマンの時代とは」

日本学術会議第一部会員・学習院大学法学部教授

遠藤 薫

### 全体討論

コーディネータ:

小林 傳司

開会の挨拶 日本学術会議第三部会員・京都大学学術情報メディアセンター教授

小山田 耕二

総合司会 日本学術会議第一部会員・京都大学大学院法学研究科教授

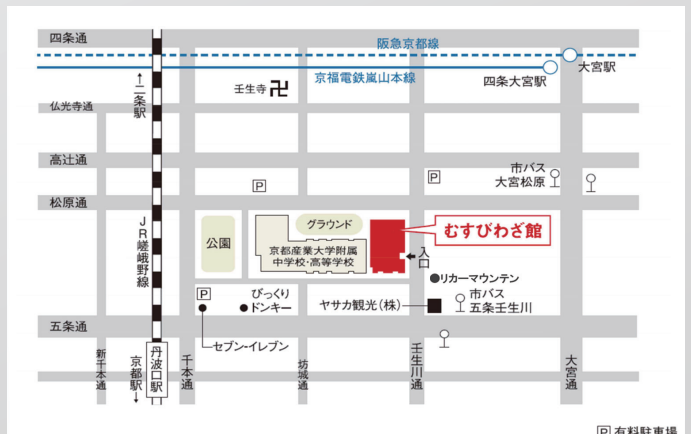
高山 佳奈子

プログラム

- 定員 約400名(当日先着順)
- 主催 日本学術会議近畿地区会議, 京都産業大学
- 後援 公益財団法人 日本学術協力財団
- お問い合わせ先  
日本学術会議近畿地区会議事務局(京都産業大学内)  
TEL 075-705-2953 FAX 075-705-1960  
Email: senryaku-kikaku@star.kyoto-su.ac.jp

### <アクセス>

- JR嵯峨野線「丹波口」駅下車 徒歩4分
  - 阪急京都線「大宮」駅下車 徒歩7分
  - 京福電鉄嵐山線「四条大宮」駅下車 徒歩7分
- ※駐車スペースがありませんので、車でのご来場はご遠慮ください。





## 2019年度 中国・四国地区会議事業報告

事業名	実施日時	場所	事業内容
<p>・第1回地区会議 運営協議会及び 学術講演会</p>	<p>2019年11 月16日</p>	<p>山口大学大学 会館</p>	<p><u>運営協議会：</u> 1) 令和元年度公開学術講演会について 2) 令和2年度公開学術講演会について 3) 令和元年度地区ニュース (No.51) について 4) 地区会議の動向（「学術の動向」）について 5) 第4回地方学術会議について</p> <p><u>学術講演会：</u> テーマ「SDGs（持続可能な開発目標）の実現に向けた地域研究とイノベーション研究」</p> <p>開会挨拶（以下敬称略）： 1) 武内 和彦（日本学術会議副会長） 2) 神谷 研二（日本学術会議中国・四国地区会議代表幹事） 3) 岡 正朗（山口大学長）</p> <p>基調講演： 1) 「SDGsの最新動向と大学の役割」林 裕子（山口大学大学院技術経営研究科教授（特命）） 2) 「地域学と地方創生」田中 和広（山口大学理事・副学長（人事労務・地域連携担当）） 3) 「古代テクノポリス山口ー史跡周防鑄銭司跡の調査と銭貨鑄造ー」田中 晋作（山口大学人文学部教授） 4) 「環境 DNA 研究の最前線とSDGsへの貢献」赤松 良久（山口大学大学院創成科学研究科</p>

			<p>准教授)</p> <p>5) 「遺伝情報の維持および発現制御の分子機構」島田 緑 (山口大学共同獣医学部教授)</p> <p>6) 「塩分濃度差エネルギーの有効利用」比嘉 充 (山口大学大学院創成科学研究科教授)</p> <p>7) 「中高温微生物研究センターの活動と SDGs (持続可能な開発目標)」薬師 寿治 (山口大学大学院創成科学研究科教授)</p> <p>閉会挨拶： 堀 憲次 (山口大学理事・副学長 (学術研究担当))</p>
<p>・ 地区会議ニュースの発行 (No. 51)</p>	<p>2020年3月</p>		<p>中国・四国地区の日本学術会議会員・連携会員及び教育研究機関等へ配布</p>
<p>・ 第2回地区会議運営協議会</p>	<p>2020年3月</p>	<p>メール審議</p>	<p>運営協議会： 1) 2019年度事業報告及び2020年度事業計画について 2) 2020年度公開学術講演会について 3) 地区会議の動向 (「学術の動向」) について 4) 運営協議会委員の選出について 5) 地方学術会議委員会委員の中国・四国地区会議からの推薦について</p>
<p>・ 「地区会議の動向」 (学術の動向) への掲載</p>			<p>1) 2018年度公開学術講演会報告 ※2019年4月号掲載 2) 2019年度公開学術講演会報告 ※2020年3月号掲載</p>

## 令和元年度 九州・沖縄地区会議事業報告（案）

事業名	実施日時	場所	事業内容
運営協議会の開催	令和元年 9月	書面回議	議題 (1) 令和元年度下半期の科学者懇談会及び学術講演会概要案について審議
	令和2年 3月	書面回議	議題 (1) 令和元年度事業報告(案)について (2) 令和2年度事業計画(案)について (3) 令和2年度上半期の科学者懇談会及び学術講演会実施概要(案)について (4) 令和2年度学術講演会(第三部夏季部会共催)実施概要(案)について
科学者懇談会の開催	令和2年 2月 11日 (火)	宮崎市	武内副会長、池ノ上宮崎大学長ほか 41名が出席し、意見交換及び懇談会等を行った。
学術講演会等の開催	令和2年 2月 11日 (火)	宮崎市	宮崎大学との共催にて学術講演会を開催した。 ◇テーマ 世界を視野に宮崎大学から始める新薬開発への挑戦 ◇演題・講演者 ・『心血管ホルモン・アドレノメデュリンの発見から新薬開発の挑戦へ』 北村 和雄（宮崎大学 医学部教授） ・『地方大学の新たな挑戦』（パネルディスカッション） 中里 雅光（宮崎大学 医学部教授） 寒川 賢治（国立研究開発法人

			国立循環器病研究センター 名誉研究所長・理事長特命補佐) 古谷 真優美 (京都大学 学術 研究支援室 リサーチ・アドミニストレー -) 井田 隆徳 (宮崎大学フロンテ ィア科学総合研究センター 准教授) ◇参加者 151名
日本学術会議九州・沖縄地区ニュースの発行	令和2年3月		No. 118号を発行

日本学術会議協力学術研究団体への新規申し込み団体の概要

	団体名	概 要
1	<p>日本子育て学会  (<a href="http://www.kosodategakkai.jp/">http://www.kosodategakkai.jp/</a>)</p>	<p>本団体は、保護者・子育て支援者・研究者の三位一体のもと学際的な研究を推進し、子育て研究に関心を持つ者が、知識・技術の交流と親睦を図り、子育て及びその関連領域における研究と実践活動の発展に寄与することを目的とする。</p>



公開 WEB シンポジウム「分子科学研究所所長招聘会議「光り輝く博士課程卒業生（仮題）」の開催について

1. 主 催：日本学術会議化学委員会  
大学共同利用機関法人自然科学研究機構分子科学研究所、  
公益社団法人日本化学会戦略企画委員会
2. 共 催：無
3. 後 援：無
4. 日 時：令和2年6月3日（水）13：00～17：00
5. 場 所：岡崎コンファレンスセンター
6. 分科会の開催：開催予定（化学委員会、化学企画分科会）
7. 開催趣旨：本会議は、上記のとおり、日本学術会議化学委員会、分子化学研究所、および日本化学会戦略企画委員会の合同開催会議として毎年開催し、化学分野における種々の重要課題を取り上げて議論し、報告、提言をしてきた。欧米の製薬企業では博士号を持たない人は一人前の研究者として扱われない。その「理由」を明らかにし、国際的観点から見た博士の重要性、国力・研究力の維持向上等、技術立国日本の近未来への指針について議論する。  
なお、本会議は、COVID-19 が拡散している深刻な状況を鑑み、WEB による公開シンポジウムとして開催する。
8. 次 第：
  - 13：00 挨拶  
川合 眞紀（日本学術会議第三部連携会員、分子科学研究所所長）
  - 13：05 報告  
加藤 昌子（日本学術会議第三部会員、北海道大学大学院理学研究  
院教授）
  - 13：15 趣旨説明「企業において光り輝く博士課程卒業者（仮）」  
中村 栄一（日本学術会議第三部会員、東京大学理学系研究院教授）
  - 13：45 講演「博士人材追跡調査（仮）」  
磯谷 桂介（文部科学省 科学技術・学術政策研究所(NISTEP)所長)
  - 14：15 講演「未定」  
小林 喜光（三菱ケミカルホールディングス会長、日本化学会次  
期会長候補）調整中

14 : 45 休憩

15 : 00 講演「博士課程で何を学ぶか（仮）」  
長瀬 公一（東レ経営研究所）調整中

15 : 30 講演「未定」  
現役の企業博士研究者（交渉中）

16 : 00 講演「若手のエンカレッジのための CISTI の施策について（仮）」  
橋本 和仁（物質・材料研究機構(NIMS)所長）調整中

16 : 30 総合討論

17 : 00 閉会

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

10. 申し込み方法・連絡先

岡本 裕巳（日本学術会議第三部連携会員、分子科学研究所メゾスコピ  
ック計測研究センター）  
[aho@ims.ac.jp](mailto:aho@ims.ac.jp)

（下線の登壇者は、主催分科会委員）



日本学術会議九州・沖縄地区会議主催学術講演会  
「地域防災とリスクコミュニケーション」の開催について

1. 主 催：日本学術会議九州・沖縄地区会議
2. 共 催：国立大学法人大分大学
3. 後 援：大分県、大分市、国土交通省九州地方整備局大分河川国道事務所、大分地方気象台  
(依頼予定)
4. 日 時：令和2年9月28日(月) 14:00～16:30
5. 場 所：大分全日空ホテルオアシスタワー(予定)

6. 開催趣旨：

報道機関は、災害関連情報を視聴者・購読者に提供しているが、それらの情報を住民はどのように受信しているのか、我が事として受け止めているのだろうか。受信した情報をどのような形で家族や地域に発信、共有をしているのか。また、住民はどのような情報を求めているのか。災害発生前のリスクマネジメント、さらには災害発生時・発生後にはどのような情報を届けるべきなのか。このような課題は、垣根を越えた仕組みのなかで共有し、住民の避難行動、命を守る行動へとつなげていくための継続的な取り組みが社会全体で求められている。これは、幅広い意味での「リスクコミュニケーション」であり、情報受発信のあり方がこれまで以上に問われているといえる。

近年多発する災害において課題として指摘され続けている「情報」と「避難」のあり方について、報道機関が考える課題、リスクコミュニケーションのあるべき姿や方策について共通認識を深め、地域防災への提言と社会的な取り組みのあり方を議論する。

7. 次 第：

1. 開会挨拶 (14:00～14:10)
 

日本学術会議副会長 渡辺 美代子	(14:00～14:05) (5分間)
大分大学長 <u>北野 正剛</u> (日本学術会議連携会員)	(14:05～14:10) (5分間)
2. 情報提供 (14:10～14:35) (25分間)
 

気象庁大分地方気象台より(調整中)
3. パネルディスカッション (14:35～16:05) (90分間)
 

議 題：調整中

登壇予定者 : 大分県内マスコミ各社

コーディネーター：小林 祐司(大分大学減災・復興デザイン教育研究センター長)

コメンテーター：気象庁大分地方気象台(調整中)
4. 閉会挨拶 (16:05～16:10) (5分間)
 

九州・沖縄地区会議 代表幹事 君塚 信夫 (日本学術会議第三部会員、  
九州大学大学院工学研究院 教授)
5. 備考
 

新型コロナウイルス感染症の状況次第では、延期、中止又は開催方法の変更の措置を検討するものとする。

※下線の講演者等は、主催地区会議の会員・連携会員

